

熱中症が疑われる症状が発現した場合の対応計画（記載例）

次にあげる熱中症が疑われる症状例が発現した者に対しては、下記フロー図に従い速やかに処置する。

熱中症が疑われる症状例

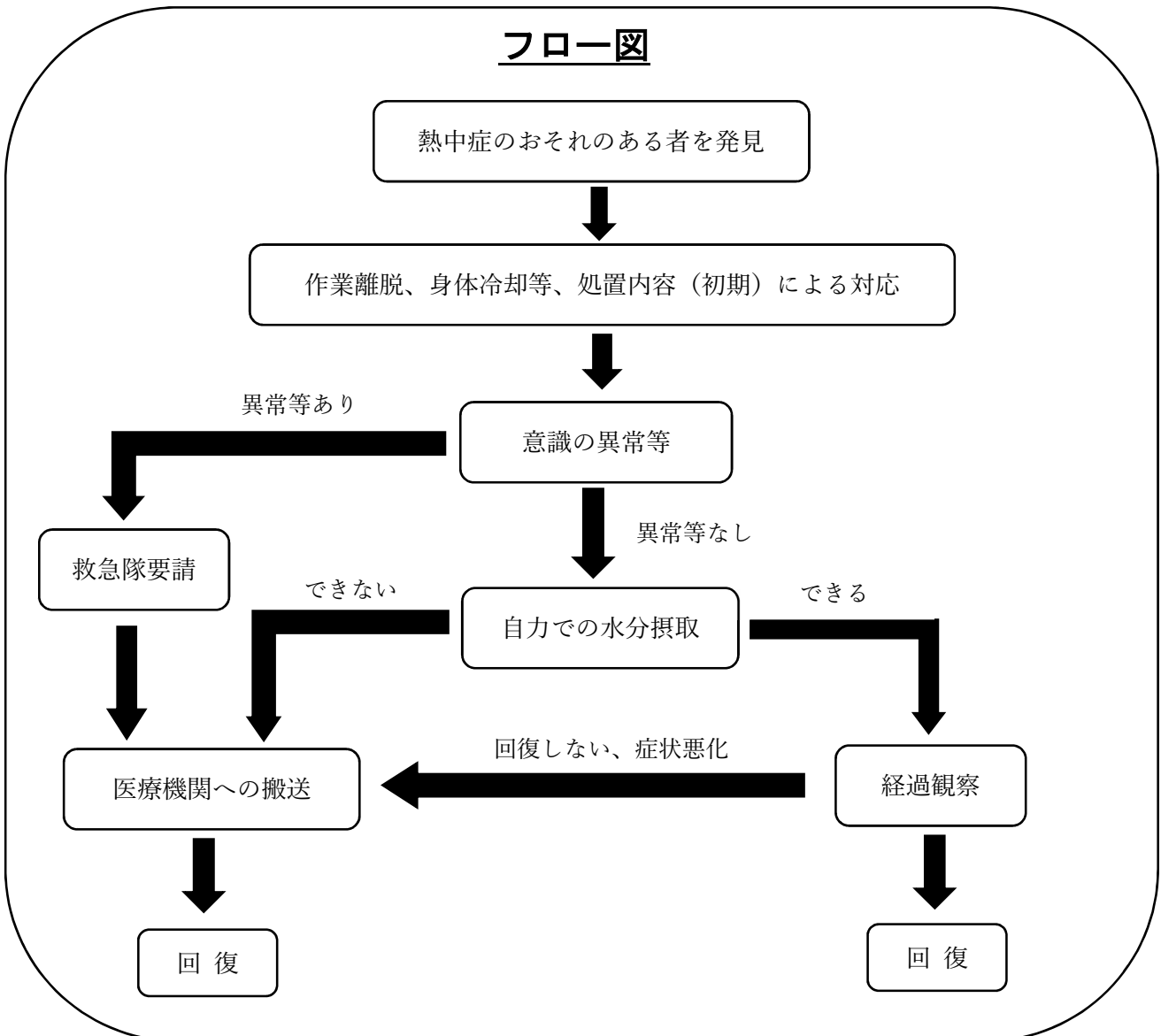
【他覚症状】

ふらつき、生あくび、失神、大量の発汗、痙攣 等

【自覚症状】

めまい、筋肉痛、筋肉の痙攣、頭痛、不快感、吐き気、倦怠感、高体温 等

フロー図



【処置内容（初期）】

- ・日影やクーラーの効いた室内に移動
- ・休養（顔色が悪ければ足を高くする）
- ・可能な範囲で衣服を脱がせる、緩める
- ・氷のう等で動脈の上を冷やす（首の両脇、膝の下、両足の付け根等）
- ・濡らしたタオルで皮膚を湿らせ、扇風機やうちわ等であおぐ
- ・水分補給